

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>3か年事業の初年次である今年度は、各村のキーパーソンらの能力向上及び地域行政との協力体制の構築に重きを置いて、①米の生産性向上と営農の多様化を図る活動、②生活習慣が変わり、子どもや住民の健康・栄養状態が改善されることを図る活動、③地域住民のネットワーク構築・地域リーダーの育成を図る活動、④自立的発展の核となる農民組合の能力強化を図る活動という4つの軸から活動を展開した。その結果、上位目標の実現に向けて、2年次の”事業効果の拡大”、3年次の”事業効果の定着”を見据えた上での”事業の基盤”を築くことができたと考える。具体的な数値等は下記の通りである。</p> <p>(1) 米の生産性向上と営農の多様化を図る活動 SRI 農法を実践する農家が対象世帯の 30.21%、家庭菜園を営む農家が対象世帯の 47.83%、養鶏を営む農家が対象世帯の 50.40%となり、農家の食料生産力が向上しつつある。</p> <p>(2) 生活習慣が変わり、子どもや住民の健康・栄養状態が改善されることを図る活動 過去 1 週間に補完食を調理した母親を持つ子どもの割合が 30.0% (2018 年 5 月)、43.2%(同年 11 月)となり、ベースライン調査時 (3.5%、2017 年 5 月) に比べ、住民らの栄養や健康に対する意識の向上及び生活習慣の変化が表れはじめています。</p> <p>(3) 地域住民のネットワーク構築・地域リーダーの育成を図る活動 ネットワーク構築の第一歩として農民グループ及び母親グループが形成され、SRI 農法による田植えや補完食の調理など、住民らが自らの生活を改善していくために協働し始めつつある。</p> <p>(4) 自立的発展の核となる農民組合の能力強化を図る活動 各組合において使命や活動目的が確立されたほか、事業計画及びそれに基づいた予算計画策定が行われ、持続的な組織となるための基盤ができつつある。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>2018 年 7 月に開催されたカンボジア総選挙や雨季の降水量の影響などにより一部の活動に変更・中止等があったものの、事業は概ね計画通りに実施された。実施された各活動における研修回数、参加者数(延べ数)は以下の通りである。</p> <p>(1) 生活習慣が変わり、子どもや女性を中心とした住民の健康・栄養状態が改善されることを図る活動</p> <p>A SRI 農法による稲作技術の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 稲作技術トレーナー養成研修 (3 回: 816 名) 2. 稲作技術研修 (3 回: 2,948 名) 3. 田植えデモンストレーション (1 回: 204 名) 4. 視察研修 (1 回: 103 名) 5. 収穫高調査 (1 回) 6. SRI フィールド集会 (1 回: 249 名) <p>B 家庭菜園の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭菜園技術トレーナー養成研修 (2 回: 497 名) 2. 家庭菜園技術研修 (2 回: 1,588 名) <p>C 養鶏の推進</p>

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養鶏技術トレーナー養成研修(2回: 535) 2. 養鶏技術研修(2回: 1,395名) 3. 養鶏視察研修(1回: 137名) <p>E 草の根獣医の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 草の根獣医養成研修(1回: 149名) 2. 獣医器具の支給 地区評議会を通じて、研修を終了した農家へ必要な器具を供与した <p style="text-align: center;">(2) 生活習慣が変わり、子どもや女性を中心とした住民の健康・栄養状態が改善されることを図る活動</p> <p>A 栄養改善のための行動変容推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体測定事前研修(2回: 158名) 2. 子どもの身体測定(2回: 2,658名) 3. 栄養に関するトレーナー養成研修(2回: 174名) 4. 栄養に関する研修(2回: 1,462名) 5. 補完食に関するトレーナー養成研修(1回: 84名) 6. 補完食の実演(年6回(1回につき2セット)):4,765名) <p>B 公衆衛生の改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生に関するトレーナー養成研修(1回: 88名) 2. 公衆衛生に関する研修(1回: 912名) 3. 公衆衛生キャンペーン(1回: 719名) <p>C 疾病予防の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病予防に関するトレーナー養成研修(1回: 83名) 2. 疾病予防に関する研修(1回: 700名) <p>D リプロダクティブヘルスの促進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブヘルスに関するトレーナー養成研修(1回: 92名) 2. リプロダクティブヘルスに関する研修(1回: 694名) <p style="text-align: center;">(3) 地域住民のネットワーク構築・地域リーダーの育成を図る活動</p> <p>A 情報及び経験共有の促進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 農業技術に関する情報共有集会(1回: 146名) 2. 保健衛生・栄養に関する情報共有集会(1回: 16名) 3. 食料・栄養安全保障に関する情報共有集会(2回: 300名) 4. 母親グループミーティング(2回: 1,235名) 5. モデルファーマーミーティング(2回: 155名) <p>B リーダーシップ研修(2回: 328名)</p> <p>C ネットワーキング研修(2回: 330名)</p> <p>D 若者対象の農業・保健研修(3回: 483名)</p> <p>E 村レベル関係者集会(1回: 1,030名)</p> <p>F プロジェクト運営委員会(2回: 39名)</p> <p>G 郡レベル関係者集会(1回: 178名)</p> <p>H 州レベル関係者集会(1回: 130名)</p> <p style="text-align: center;">(4) 自立的発展の核となる農民組合の能力強化を図る活動</p> <p>B 農民組合の事業実施能力の強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 状況分析とビジネスチャンスに関する研修(1回: 74名) 2. 農民組合の製品・サービスの市場調査・開拓に関する研修(1回: 59名) 3. ビジネスマネジメントに関する研修(1回: 62名)
--	---

	<p>C 農民組合運営能力の強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップ及びマネジメントに関する研修(1回: 55名) 2. 簿記研修(1回: 70名) 3. 農民組合の分析レビュー(1回: 67名) 4. 視察研修(1回: 14名) <p>D 農民組合ネットワークの促進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報共有集会(2回: 42名) 2. プロジェクト運営委員会(1回: 23名)
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>本事業では、現地の人材や組織との「垂直方向」及び「水平方向」の連携を組み合わせたアプローチをとっている。前者の「垂直方向」では、州・郡レベルの農業局及び保健局をはじめ、地区レベルの保健センターや地区評議会と密接な協力関係を構築し、彼らのコミットメントを最大限に高めることで、事業対象地においてより深い事業効果の浸透を図った。また、後者の「水平方向」では、先行事業で農業分野及び保健分野に実績のある篤農家や女性グループからの直接指導や視察受け入れにより、農家間の学び合いの仕組みを構築した。これらのアプローチにより、事業効果の発現が順調に認められ、今年度の指標を全て達成することができた。</p> <p>また、先行事業で設立された農民組合を対象とした能力強化を図る活動においても、事業実施能力及び組織運営能力の両面から支援を行ったことで、着実に組織としての機能が強化されつつある。</p> <p>各活動における指標値及び達成された成果は下記の通りである。</p> <p>(1) 米の生産性向上と営農の多様化を図る活動</p> <p>【指標1】 SRI 農法、家庭菜園、養鶏を行う農家数が増加する</p> <p>■2018年指標値：事業対象4,552世帯の30% (1,366世帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SRI 農法：対象世帯の 30.21%、1,375世帯が実践した ・ 家庭菜園：対象世帯の 47.83%、2,177世帯が実践した ・ 養鶏：対象世帯の 50.40%、2,294世帯が実践した <p>開始時期が年一回と限られている SRI 農法（稲作農法）に比べ、開始時期を選びやすい家庭菜園や養鶏の方が実践世帯を多く集めることができた。</p> <p>【指標2】 慣習的農法と SRI 農法による収穫量の差</p> <p>■指標値：慣習的農法と SRI 農法による収穫量の差が1.3倍以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月に実施した収穫高調査の結果、SRI 農法の平均収穫高(3.67t/ha)は慣習的農法(2.57t/ha)より1.10t/ha高く、収穫量の差は1.43倍であった。※サンプルサイズ n=128 <p>(2) 生活習慣が変わり、子どもや住民の健康・栄養状態が改善されることを図る活動</p> <p>【指標1】 補完食の普及率が高まる</p> <p>■2018年指標値：過去1週間に補完食を調理した母親を持つ子どもの割合：20%</p> <p>5月及び11月身体測定時に生後6ヶ月から24ヶ月の子どもを持つ母親426人(5月)、477人(11月)を対象に行った調査の結果、過去1週間に補完食を調理した母親を持つ子どもの割合はそれぞれ30.0%、43.2%であった。</p>

(3) 地域住民のネットワーク構築・地域リーダーの育成を図る

活動

- 2018年指標値：農民グループ、母親グループが形成される
 - ・SRI農法田植えグループ：25グループ（計215人）が形成された
 - ・2歳未満児をもつ母親グループ：60グループ（計531人）が形成された

(4) 自立的発展の核となる農民組合の能力強化を図る活動

- 2018年指標値：各農民組合に使命や活動目的が確立し、事業計画及び予算計画を策定することができる
各農民組合において使命や活動目的が話し合いのうえ合意された。また、それをもとに2018年7月に下半期の事業計画及び予算計画が策定され、12月に半期レビューを実施後、2019年の年間事業計画及び予算計画の策定が行われた。それらの内容は2019年1月～2月に開催される年次総会にて各農民組合理事らが組合員に向けて発表する予定である。

以上の成果が相乗的に作用することで、本事業の上位目標である「事業対象地域の住民が自らの力で生活状況を改善し、十分かつ栄養のある食事を摂り、良好な健康状態を維持することができる」が達成されると考えている。

【指標】5歳未満児の栄養不良(低体重)率が減少する

- 2018年指標値：25%
5月に生後6か月から59か月の子ども1,204人を対象に身体測定を行ったところ、WHOによる標準体重比での標準偏差-2以下の栄養不良(低体重)率は**27.5%**であった。
全体 1,204人：27.5%（栄養不良331人）
男児 646人：27.6%（栄養不良178人）
女児 557人：27.3%（栄養不良152人）

11月から12月にかけて生後6か月から59か月の子ども1,271人を対象に身体測定を行ったところ、WHOによる標準体重比での標準偏差-2以下の栄養不良(低体重)率は**23.9%**であった。

- 全体 1,271人：23.9%（栄養不良304人）
男児 664人：23.2%（栄養不良154人）
女児 607人：24.7%（栄養不良150人）

5月から11月～12月の間に栄養不良率の減少が確認されたが、その要因として現時点において考えられることは、①上記の期間に補完食の推進を村レベルで行ったことによる乳幼児らの食生活の改善、②先行事業の経験から、季節的な要因で食欲不振や体調不良が起きやすく急性的な栄養不良が増加する5月に比べ、11月は慢性的な栄養不良の状態が数字に表れやすい。従って、栄養不良率は5月より11月の方が低い傾向がある。

	<p>本事業では、今回減少が見られた栄養不良率を翌年5月にどれだけ維持できるかを注視し、必要な対応策を考えていく。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業では、各村の篤農家や保健ボランティアを対象としたトレーナー養成研修を実施し、農業技術や保健衛生・栄養に関する知識に加え、それらを他の農家へと広めていくための教授法もあわせて指導している。そして教授法を学んだ篤農家や保健ボランティアらのリーダーシップのもと、農業技術の普及や栄養・健康改善への意識向上及び生活習慣の改善が、いずれもグループ結成など住民らの相互協力により取り組まれている。その結果、人から人へと技術や知識が伝わる仕組み、かつ村レベルで住民同士が協力する体制ができつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SRI 農法や家庭菜園、養鶏技術を学ぶために、農家らが篤農家のもとを訪れて指導を求める動きが各村で確認された。さらに、事業対象外の村からも農家が学びに訪れたケースが複数報告された。 ● 田植えのための労働力が不足している村において、SRI 農法田植えグループのメンバーが各家庭の田んぼをまわり、互いに協力し合いながら田植え作業を行った。 ● 「補完食の実演」の開催時に、FIDR の資金援助に頼らずできる限り野菜や卵などの食材を母親グループのメンバーらが分担して持参する動きが見られた。 <p>さらに、地域行政との協力体制の構築にも重きを置いて活動したことから、村レベルでの生活改善に対する取り組みを特に村・地区行政がサポートする体制もできつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月のプロジェクト運営委員会並びに12月に開催されたSRI フィールド集会において来年度の更なる事業成果の拡大が地域の行政職員らと目標として共有された。 ● 11月に開催した公衆衛生キャンペーンにおいて、ごみ拾い用トンゴやごみ袋などの道具の用意を地区評議会及び保健センターが率先して行った。 ● 初年次の活動終了後も、地区評議会が母親グループをサポートして「補完食の実演」を4地区16か村にて継続している(2019年1月時点)。 <p>今後はこうした事業効果を事業対象地域にてさらに広めていくとともに、住民同士、かつ住民と地域行政間の結びつきをさらに強めることで、持続発展性をより確実なものとしていく。</p> <p>先行事業で設立を支援した農民組合については、事業計画及び予算計画の策定を行うことはできたものの、その計画の実行、進捗管理、定期的な計画の見直しなど、一年を通して安定的に運営できる状態にはまだ至っていないため、今後も引き続きフォローアップを行っていく。</p>